

プライマリ・ヘルスケアを基盤にした 国際地域看護の人材育成

青年海外協力隊への参加と直面した問題と学び
帰国後にWHO/UNICEFのPHCとの出会い
PHCを基盤にした(国際)地域看護の人材育成

2025年9月12日

兵庫県立大学 名誉教授 森口育子

(JICA海外協力隊 保健師 1973年参加)

私の青春時代と 青年海外協力隊への参加

- S30年代 戦後復興から高度経済成長へ移行の時代
義務教育で憲法と民主主義の重要性を学ぶ
日常生活： 家族・地域の価値観：額へ汗して働くことに価値
貧しいが皆で助け合う
高校時代まで過ごした浜松の“やらまいか”精神
長期にわたるベトナム戦争→戦争に対する憤りと平和
- ・ S40年代 高度経済成長と大学紛争や成田闘争の時代
ベトナム戦争を通してアジア諸国や途上国への関心
途上国での青年海外協力隊(JOCV)の活動を知る
日本の病院・保健所の活動に満足できず、未知への挑戦
↓
第1次オイルショックの1973年(S48年)にネパールへ

カトマンズにある ネパール結核予防会に 派遣される (1973～1976年)



ネパール唯一の結核専門病院

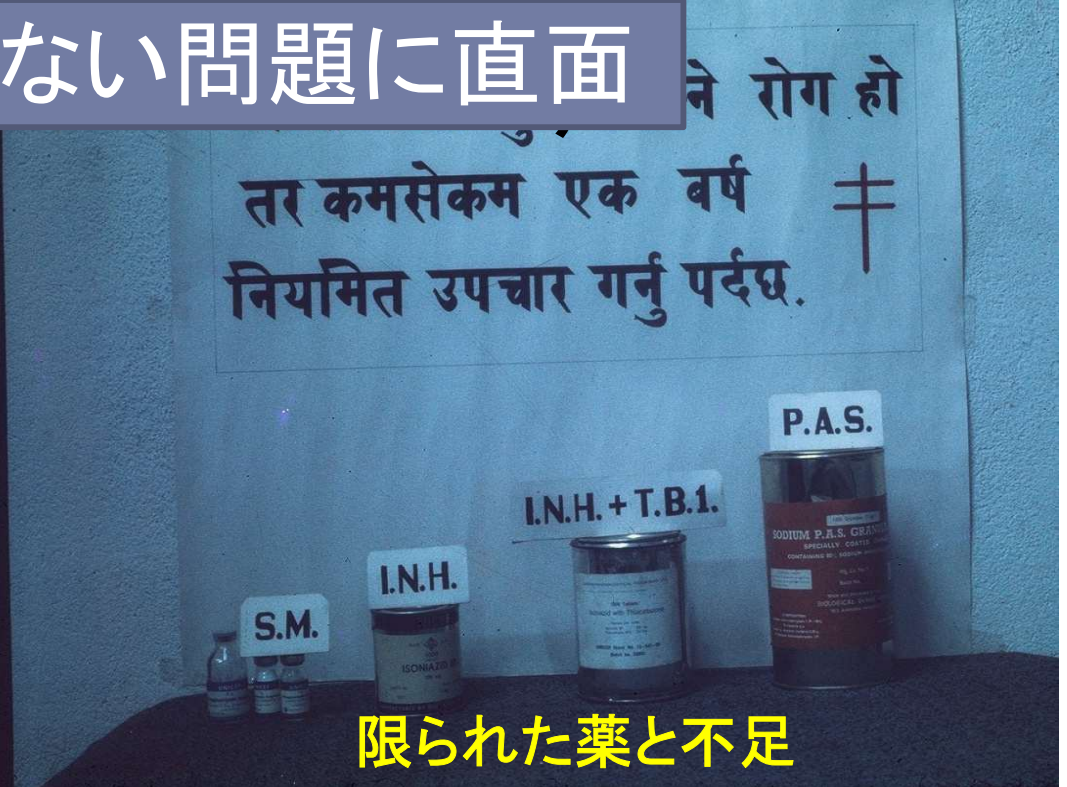


2年間は看護婦長として臨床看護

結核病院で予想しない問題に直面



重症化してから入院する患者



限られた薬と不足



薬以上に効果のある食事と患者の笑顔



入院費がなくなりヒンズー教寺院へ

病院で患者を待つ看護から地域に出向く公衆衛生チームの活動へ



ネパールの赤ひげ岩村先生へ相談



まずは村に出向く



結核のモデルビレッジづくり協力要請



公衆衛生チームで全戸訪問の結核対策

ネパールでの結核対策と生活からの学び

- 日本とネパールの健康と保健医療の格差を痛感
- 世界の結核対策の基本は同じ(日本での保健師経験)
- 現地に学びその国・地域で実施可能な方法を用いる必要
- 病院で患者を待つのではなく、地域に出向いた活動が重要
- 村では住民の協力を得て住民の生活に合った活動をする必要(ex 早朝の家庭訪問)
- 村のヘルスワーカーの重要性と研修の必要
- But ネパールの人々の生活から「豊かさ」を実感
ゆったりとした時間の流れ、家族・友人・地域の人々の
密接な関係、貧しいがお互いに助け合い・分かち合う



その後の地域保健活動の原点となる

帰国後、ネパールと日本の地域保健活動の共通性を求め→プライマリヘルスケア(PHC)との出会い

WHO/UNICEFのPHCのアルマ・アタ宣言(1978)

「健康は基本的な人権であるにもかかわらず、先進国と開発途上国の間には明らかな格差があり、同じ国内においてさえも同様な格差があるがこれらの不平等は是認できないものである。この不平等格差を解消し、21世紀までにすべての国民が社会的経済的に生産的な社会生活ができる健康水準に達するように各国政府、国際機関及び全てのコミュニティは全力を傾けなければならない。PHCはそのための鍵である。」

PHCを基盤にした国際地域看護の人材育成

- 1 静岡県で保健師教育の試み (1978～1987)
- 2 インドネシア・南スラウェシ州での地域看護の人材育成 (1984～2010年)
 - 1) インドネシア看護教育プロジェクトで地域指向の看護教員育成 (1984～1985)
 - 2) 南スラウェシ地域看護推進プロジェクトでの地域看護リーダーの育成 (2001～2010)
- 3 兵庫県立大学大学院に国際地域看護領域を開設し、高度実践家の育成 (2004～2011)

I 静岡県でのPHCを基盤にした保健師教育の試み (1978－1987)

- 先輩保健師の勧めもあり保健師学校の教員に
- ネパールの経験とPHCの考え方を教育に生かしたい
- 国立公衆衛生院(専攻課程)で国内外のPHCから学ぶ



- 保健師の仕事に誇りを持つ教員達との出会い
- PHCの研究者の指導で教員間でPHCを学習し、保健師教育にPHCを導入
- 地域保健活動演習と地域実習の改善



全教員(仲間)でPHCを基盤にして現場と教育が一体化した
保健師教育を目指す (静岡県方式)



教育の醍醐味を実感 (教育の原点)

保健婦雑誌

8

Vol. 39 No. 8 - 1983

THE JAPANESE JOURNAL FOR PUBLIC HEALTH NURSE

〈特集〉

生活の実態に迫る実習を
静岡県立厚生保育専門学校保健学科の試み

静岡県の保健婦教育の変遷

—— 藤井とみ江ほか・16

現場と学校が一体化を目指した演習指導体制の
確立と学習効果

—— 藤井とみ江ほか・17

藤枝市助産地区における健康管理者としての主
婦の意識

—— 藤井とみ江ほか・34

静岡県における保健婦教育の課題

—— 藤井とみ江ほか・41

地域実習を受け入れた私達の保健婦活動とその
ゆくえ

—— 高沢まさみほか・46

〈座談会〉

現場・学校・学生の共同作業を志す

—— 宇佐美美砂子・佐藤美子・お山船子・神田千津子

—— 菅正樹・森口貴子・藤井とみ江・50

〈コラム〉

組織づくりシリーズ・27

実践事例13 障害児の集団保育を考える

—— 松下 悠・菊地陽子・1

〈速報〉

保健活動の「見直し」から「見通し」へ・4

保健・医療のあるべき姿を問い直す

—— 南藤静子ほか・68

〈速報報告〉

老人保健法による手帳交付事例について

—— 藤枝市保健課保健婦一岡・76

〈寄言〉

保健婦はこのままでよいのか

—— 川原康夫・3



医学書院

THE JAPANESE JOURNAL FOR PUBLIC HEALTH NURSE

保健婦雑誌

Vol. 40 No. 10
1984

特 | 住民が期待する保健婦になれるか
集 | 静岡県における活動見直しの実践

静岡県が保健活動の見直しを遂げた背景—— 藤井とみ江

保健婦教育課程に保健活動(見直し)の理論を取り入れた経過・概要とその意義

—— 藤井とみ江・森口貴子・神田千津子・南藤静子・高沢まさみ・佐藤美子

保健活動における「見直し」(認定健診)の見直し—— 1. 活動の見直しと対象の位置づけ

—— 高沢まさみ・南藤静子・大岡内紀子・お山船子・大賀静子・青田晴江・松田正巳

「保健活動」による保健活動(見直し)「見直し」の意義—— 保健婦教育の発展と保健婦の意識

—— 南藤静子・高沢まさみ・藤井とみ江・森口貴子・神田千津子・大賀静子

活動(見直し)の理論(見直し)の意義—— 松田正巳

活動(見直し)が今後とも必要である理由—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

〈座談会〉

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか

—— 南藤静子・高沢まさみ・藤井とみ江・森口貴子・神田千津子・大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 松田正巳

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 南藤静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 高沢まさみ

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 佐藤美子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 大賀静子

活動(見直し)の意義を学ぶことにより私は何を学んだか—— 青田晴江



医学書院

静岡県の保健婦教育が保健婦雑誌に2回特集される

WHO事務局長Dr. Mahlerの「看護職への期待の声明」(1985年)により指針

- 1 看護職は病院から地域への役割変化を
- 2 医者より住民のためになろう
- 3 健康問題に関する住民の教育を積極的に
- 4 健康開発のための職種間チームへの積極的参加を
- 5 非専門職ヘルスワーカーの指導監督を含むPHC組織のリーダーに
- 6 ヘルスケアチームの中で意志決定に管理的責任を



看護職は**専門職PHCワーカー**としての責任と役割

インドネシア・南スラウェシ州でのPHCを基盤にした 地域看護の人材育成

第1段階：看護教員養成校での地域指向の看護教育
(JICA看護教育プロジェクト 1984～1985年)
(国立公衆衛生院の専門課程で研究)

第2段階：PHCワーカーとしての地域助産師への期待と活動支援

- 1 3県での地域助産師の活動実態調査 (1992～1996年)
(国立公衆衛生院の研究課程で研究)
- 2 パイロット県での地域助産師の質的向上の試み
(JICA南スラウェシ地域保健強化プロジェクト 1997～2002年)
* 1997年 アジア経済危機に伴いスハルト政権崩壊

第3段階：地方分権時代の地域看護の強化(2001～2007年)

- 1 地域看護指導者育成ための「PHCと看護」国際研修
(2001～2003年)
- 2 「地域看護コーディネーター育成プロジェクト」(2005～2007年)

ゴール：南スラウェシ州地域看護指導者による地域看護の自立発展
「南スラウェシ地域看護自立推進プロジェクト」
(2008～2010年)

JICA看護教育プロジェクトの看護教員養成校での教育



日本の無償資金協力による看護教員養成校



東インドネシア地域からの多民族の学生達



プライドが高く高度医療や臨床看護指向の教員達



臨床看護指向の強い学生達

地区に出向いてのPHC実習の試み



先駆的活動をしている地域への研修旅行



地区調査後に保健ボランティアの研修



保健ボランティア主体の乳幼児健診の実施

保健ボランティアによる体重測定実習



プロジェクト終了後の継続確認

途上国で活用できるPHCの活動方法論を求め 国立公衆衛生院へ（1989～1996年）

- PHCの視点で日本の戦後の地域保健と保健師活動の研究（国立公衆衛生院・専門課程）
- 国際医療協力研究委託事業「結核に関するプライマリー・ヘルス・ケアの研究班」（主任研究者 石川信克氏）に協力研究者として参加

テーマ：「日本の戦後の公衆衛生と結核対策における保健師の果たした役割ー静岡県における戦後の保健師活動を通して考えるー」



論文：「戦後の公衆衛生で保健師の果たした役割とプライマリー・ヘルス・ケアー国際協力への展望をふまえて」

専門職PHCワーカーの活動モデルを開発

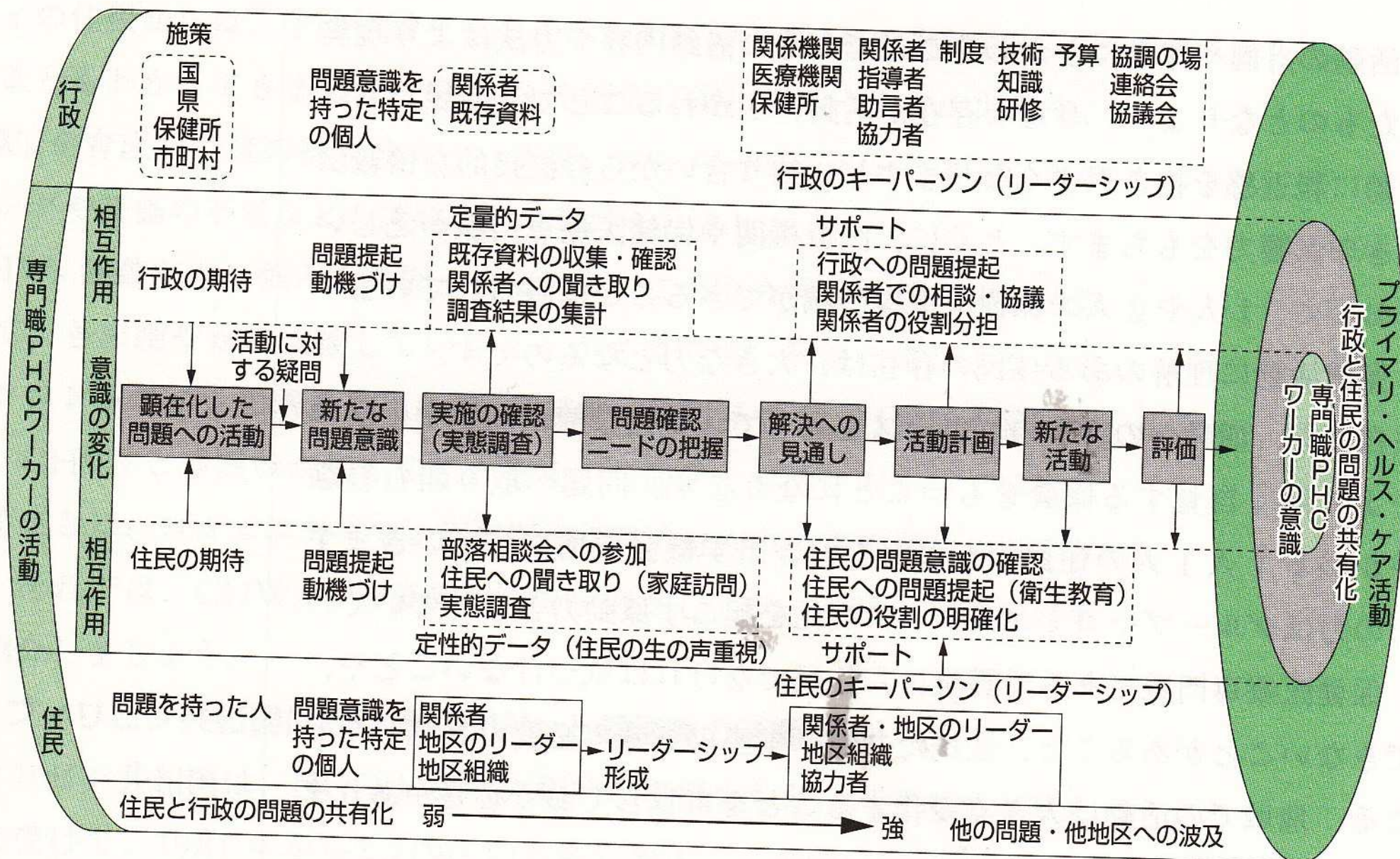


図7 PHCにおける専門職PHCワーカーの活動モデル

筆者作成

兵庫県立（看護）大学での教育活動 （1996～2012年）

大学のスローガン“**Think Globally ,Act Locally**”へ共感

大学教育に国際保健・看護の教育を導入したい
インドネシアで地域看護指導者育成と研究を継続をしたい
インドネシアの経験を生かした国際地域看護の人材育成



WHO本部で在外研究
インドネシア南スラウェシ州で地域看護推進プロジェクト
大学院で国際地域看護の人材育成
地域ケア開発研究所を拠点に国際地域看護研究会設立

ALMA-ATA 1978

PRIMARY HEALTH CARE



WHO UNICEF



The World Health Report 2008

Primary Health Care



Now More Than Ever



World Health
Organization

2012/3/20

21世紀のPHCの方向性を求めてWHO本部へ

WHO本部で短期コンサルタントとして在外研究(2000年6～10月)
本部でPHCの方向性が得られず



ヨーロッパ地方事務局訪問
(ソ連崩壊後の東ヨーロッパにおける看護体制の再構築に努力)



国際機関の役割の重要性を学ぶ
自己の限界とアジアへの関心増強



アジアでの地域看護の向上を



インドネシアの保健政策の変遷(新政権成立後)

1999 国家保健計画2010 (Indonesia Sehat2010)

1) 予防・健康増進を重視

2) 保健医療従事者のプロフェシヨリズム

看護師の2010年目標値 372,700人

助産師 // 176,900人

3) 地域健康保障制度の推進

4) 地方分権化

2001 地方分権化

保健省州・県出張所廃止→州・県の衛生部に移管

2004 保健所改革→義務的事業と発展的事業の実施

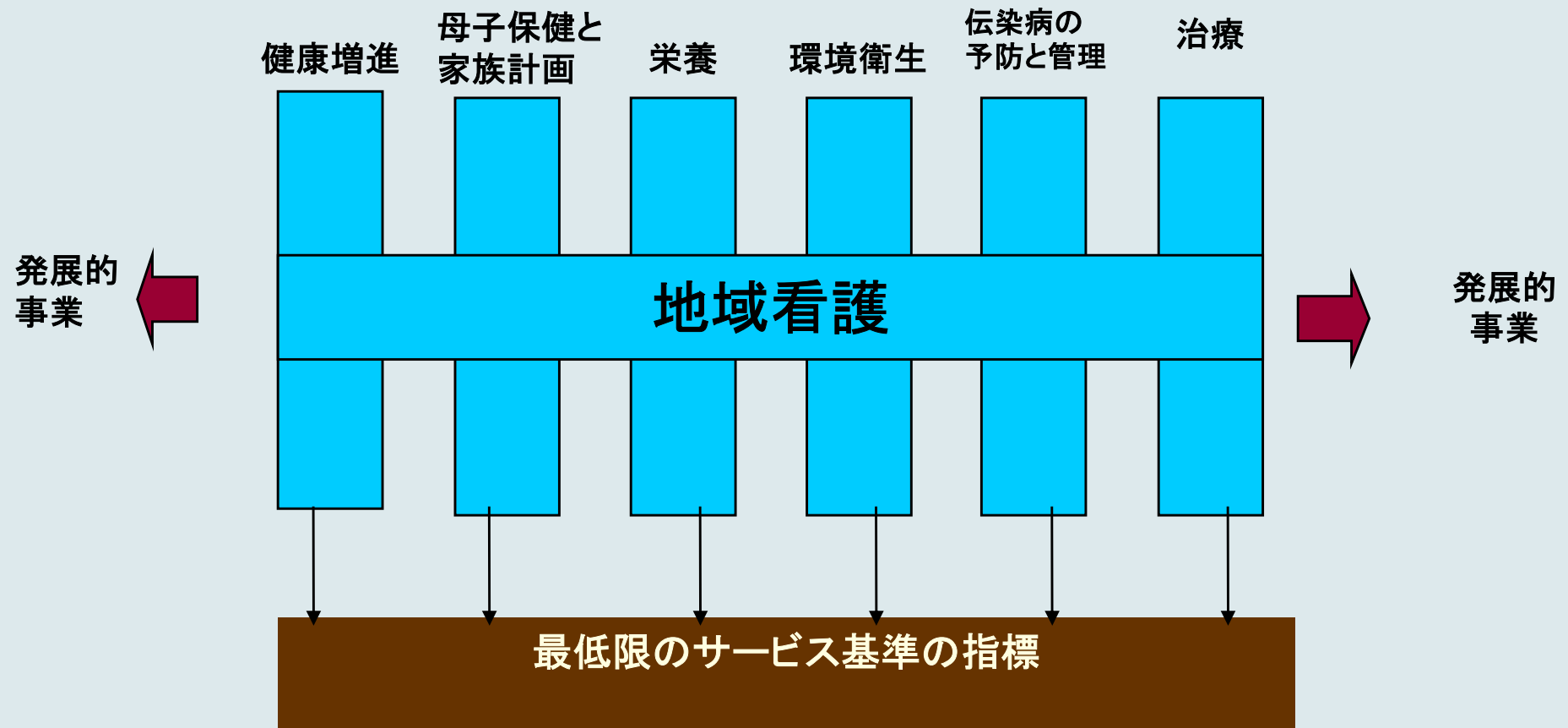
保健所の看護師を地域看護師とし機能強化

州・県・保健所に地域看護コーディネーターを設置

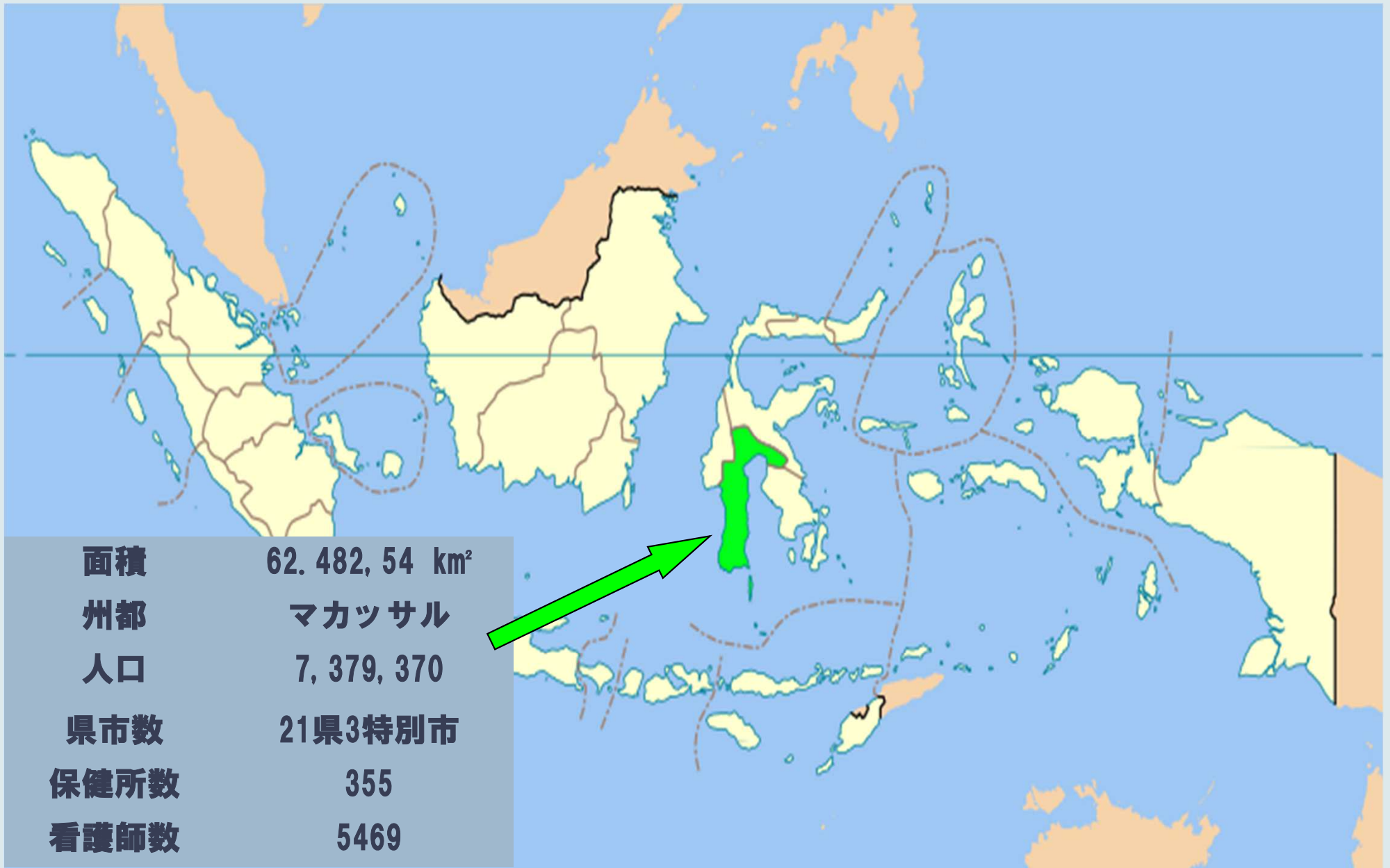
2005－2009 保健開発計画 保健省戦略的計画

保健所における地域看護師の役割

地域看護は発展的なプログラムであり、保健所の6つの主要業務を統合して、横断的に実施する活動 (2004 保健省ガイドラインより)



フィールド：インドネシア・南スラウェシ州



Ⅱ インドネシア・南スラウェシ州での PHCを基盤にした地域看護の人材育成 (2001～2011)

- 1 日本での地域看護指導者育成のための
「PHCと看護」国際研修(2001～2003年)
- 2 インドネシア「地域看護コーディネーター育成」
プロジェクト(2005～2007年)
- 3 南スラウェシ地域看護自立推進プロジェクト
(2008～2010年)

「PHCと看護」国際研修のプロセス



「PHCと看護」研修開講式



PCM講義、演習、アクションプランの発表



帰国半年後のアクションプランの実施状況の報告会



アクションプランに基づくPHC活動

県地域看護コーディネーター研修の実施



運営会議でのコーディネーター調査結果報告



モデル保健所の老人保健相談の視察

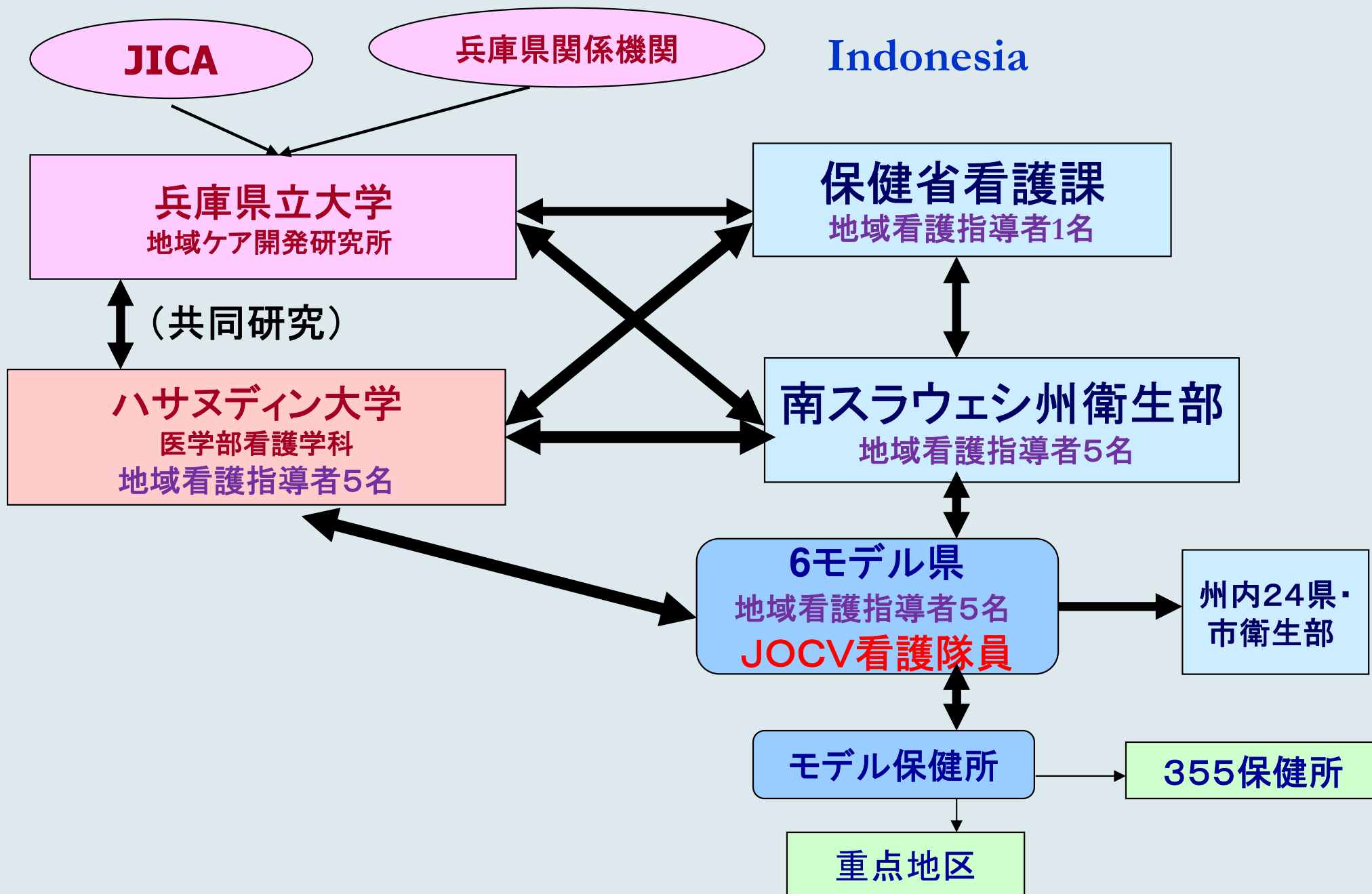


PCM手法を用いた問題分析の演習



地域看護育成研修の参加者と帰国研修員

地域看護コーディネーター育成プロジェクトのシステム



「インドネシア地域看護セミナー・ワークショップ」 プロジェクトの総括として開催（2007年12月）



JICA帰国研修員とJOCV看護隊員

南スラウェシ地域看護自立推進プロジェクト メンバーとJOCV看護隊員の協働(2008～2010)



地域看護コーディネーター達による 南スラウェシ州地域看護の発展を期待して



Ⅲ 看護教育における国際保健・看護の人材育成

- 看護基礎教育(看護系大学 看護専門学校)

2009年カリキュラム改正で統合科目として国際看護学が開始
(国際的視野で諸外国との協力を考える内容)

- 修士課程 (高度実践看護者の育成)

JICA, 国際NGO等の専門家として管理的役割が担える人材育成

- 博士課程 (研究者、教育者の育成)

国際機関(WHO, UNICEF等)の専門家

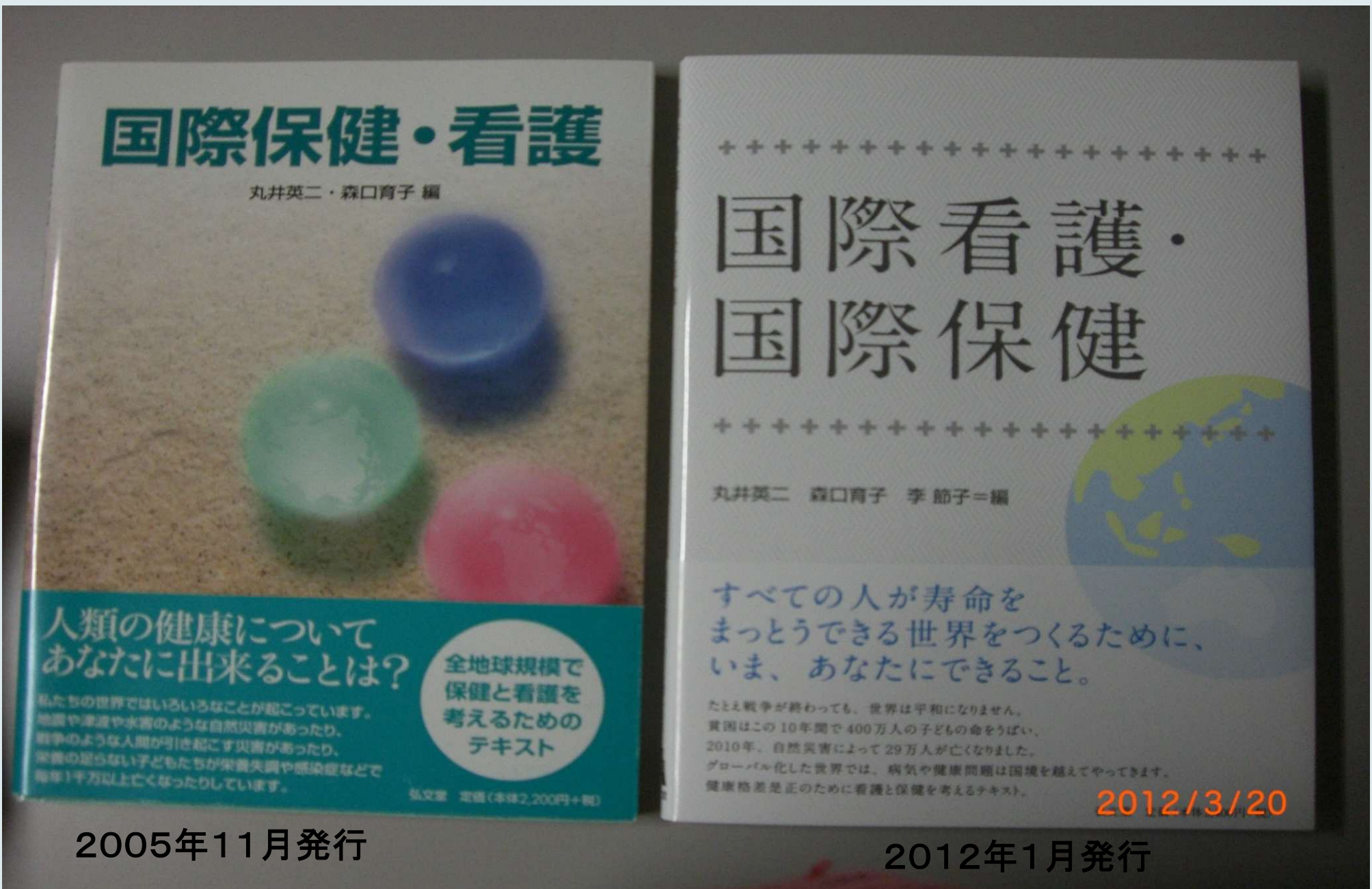
国地域際看護学の教育者、研究者

- * 現任教育(国際協力実践者の育成)

日本看護協会の研修「世界の健康問題と国際看護活動」

JICA青年海外協力隊やNGOで国際協力の実践者の相談

看護基礎教育のための国際看護のテキストづくり



修士課程 国際地域看護領域の構造



南スラウェシ州で国際地域看護演習



県衛生部長への表敬訪問



研修会への参加



日本の保健師活動について紹介



現地の大学での会議への参加

修士論文のテーマ

- ・インドネシアの地域助産師によるハイリスク妊婦ケアの現状から考える管理方法の検討
- ・インドネシア共和国A県モデル保健所における地域看護師が行う家庭訪問についての認識と実態
- ・ミクロネシア連邦における糖尿病外来受診者に対するウォーキング実践のためのアプローチ
- ・パラグアイ共和国における看護職に対する継続教育実施後の効果的フォローアップの検討
- ・ニカラグア共和国A市の家族計画外来における10代女性の相談中断者対策の検討
- ・ホンジュラス共和国A市における保健ボランティアの家族計画活動の実態と看護職に期待される役割
- ・セネガル農村部における基礎保健員の継続的活動を支える住民側の要因
- ・ブルキナファソ共和国農村部における保健医療従事者の妊娠中のケアに対する認識と活動
- ・在日外国人母子への乳児訪問における保健師の対応の困難さとその対処方法に関する検討
- ・外国人支援者が捉えた看護師の対応－在日外国人の外来受診時における看護師の適切な対応方法の検討
- ・西欧における日本人学校の養護教諭が捉えた児童生徒の健康管理の特殊性

大学院での国際地域看護人材の育成

- 修士課程修了者(14名)

内 JICA青年海外協力隊経験者 8名

修了後の進路 博士課程進学 4名

JICA専門家 1名 国際NGO職員 1名

大学教員 5名 臨床 4名

海外在住者 シンガポール1名 カナダ 1名

- 博士課程修了者(4名)

内 JICA青年海外協力隊経験者 1名 留学生 1名

修了後 全員大学教員(基礎看護学、地域看護学、
国際看護学) → 全員 教授に昇格

国際地域看護研究会の設立(2001年)

- 発足の目的: **国際地域看護の仲間づくり**と国際地域看護の実践を集積して国際地域看護学の構築
国際地域看護学の大学院生と修了生の交流の場
国際地域看護の実践者、教育者、研究者の交流の場
兵庫県立大学地域ケア開発研究所を拠点
- ・ 2001～2006年 テーマ: アジアにおける地方分権と地域保健
地方分権後の地域看護職の役割
- 毎年、国際保健医療学会で自由集会を開催し、学会員との交流
- ・ 2021年 国際地域看護研究会の20周年記念シンポジウム

国際看護の未来を後輩に託す



国際地域看護研究会・国際保健医療学会西日本地方会合同主催
森口教授 退官記念シンポジウム / (2012. 2)

コロナ後、4年ぶりに南スラウェシ州訪問 地域看護会議で地域看護リーダー達との再会 (2024.5)



南スラウェシ州からインドネシアの地域看護の推進